

潜在力をフル活用した生産強化

■みのかも夏秋なす部会 中間目揃え会の開催を支援

農林事務所は、JAめぐみのと連携し、みのかも夏秋なす部会に対して高品質な夏秋なすの安定生産に向け、適切な施肥や水管理について継続的に指導している。

7月30日に中濃夏秋なす選果場において、出荷最盛期を前に出荷規格や選果基準の再確認を目的として、夏秋なす中間目揃え会が開催された。みのかも夏秋なす部会からは8名の部会員が参加し、実際の出荷物を用いながら、つやなし果や傷果、曲がり果等の発生程度や選果基準について確認し、判断基準の統一を図った。また関係機関からは、夏秋なすの高温条件下での管理対策について情報提供を行った。



【中間目揃え会の様子】

農林事務所では、JAめぐみのと連携し、高品質な夏秋なすの安定生産に向けた栽培支援を継続する。
(地域支援第一係)

■梨 天敵利用技術の実証

近年、高温化に伴って病害虫が多発しており、梨の出荷量や品質の低下が課題となっている中、薬剤抵抗性を持っているハダニ類を対象に天敵利用技術の普及に取り組んでいる。

6月16日、美濃加茂市山之上地区の梨ほ場にて、天敵ミヤコカブリダニを放飼し、実証区を設置した。また、草生栽培において土着天敵がハダニ類を抑え込む効果が期待されることから、調査区も設置した。



【天敵・害虫数調査】

放飼前の6月8日から2週間おきに、100葉当たりのハダニ類寄生頭数および天敵発生頭数を調査している。7月下旬現在、実証区ではハダニ類を低密度で抑えており、草生栽培でも土着天敵が確認されている。

今後も、害虫および天敵の発生活長や被害状況を調査し、コスト面や労力面も含めて慣行防除体系と比較検証を行い、化学農薬に依存しない総合防除体系の普及を推進していく。
(園芸産地支援係)

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■白川町有機の里づくり協議会 地元農産物の集荷・販売拠点「yomoyama」がオープン

白川町有機の里づくり協議会は、今年度「アグリパーク重点推進モデル実践事業（直売所モデル）」に採択され、白川町黒川地区の農業研修交流施設「黒川マルケ」を拠点に、農産物の集荷・販売や農業体験、交流活動の推進に取り組んでいる。

7月9日には直売所「yomoyama」がオープンし、地元農産物を集荷して町営バスで国道41号線沿いの直売所「白川野菜村チャオ」へ輸送する貨客混載事業を開始した。あわせて、「黒川マルケ」での農産物直売も始まり、地域農産物の販売機会の拡大を図っている。



【直売所オープンの様子】

また、9月からは地元農業者による農業体験プログラムを開始し、交流活動も本格化する。これらの取組では、白川町のデジタル地域通貨「しらか ShiRaCa」のポイントを活用し、活動への参加促進を図っていく。

農林事務所では、アグリパーク構想の実現に向け、協議会との事業推進会議を通じて取組を支援しており、今後も「yomoyama」の運営や農業への段階的な参入につながる活動を推進していく。

(地域支援第二係)